縄文ロードに
向けた活動

北の縄文CLUB
HOKKAIDO
MINAMIKAYABE

# 通信

第 4 号

目　次　活動報告…2　学習…3　イベント…5

# 平成 13 年度　活動報告

今年度は 8 月に大船 C 遺跡が国の史跡に指定されました。今年調査された垣ノ島 A 遺跡から漆塗りの注口土器や、赤ちゃんの足形・手形を付けた土版が出土したりとますます縄文ファンの心を魅了していることでしょう。今年も全国各地から集まった会員の皆様方のご協力で、「北の縄文CLUB」の活動を実施することができました。心より感謝申し上げます。平成 13 年度に行われた活動は次のとおりです。

| 月　日 | 活 動 内 容 | 参加・協力人数 | 場　　所 |
|---|---|---|---|
| 4月28日 | 第4回「北の縄文CLUB」総会 | 25名 | 福祉センター第2研修室 |
| 6月17日 | NHK北海道中ひざくりげ（取材） | 15名 | 安浦漁港・大船遺跡 |
| 6月30日 | 噴火湾縄文街道まちづくりシンポジウム | 6名 | だて歴史の杜カルチャーセンター |
| 7月1日 | 噴火湾考古学研究会主催土器づくり | 6名 | 北黄金小学校 |
| 7月14日 | 土器づくり（会員向け） | 24名 | 福祉センター第2研修室 |
| 7月28日 | 縄文記念トークショー | 6名 | だて歴史の杜カルチャーセンター |
| 8月4日 | 第5回縄文土器づくり大会 | 110名 | 福祉センター講堂 |
| 8月18日 | 野焼き | 62名 | 大船遺跡 |
| 10月27日 | 石器づくり | 19名 | ふるさと文化公園 |
| 1月19日 | アンギン編み準備および研修 | 13名 | 調査団事務所 |
| 1月26日 | アンギン編み実技講習 | 38名 | 福祉センター第2研修室 |

・定例会役員会議は毎月第１木曜日に実施

・役員会議実施日および会議内容

７月　９日　第５回縄文土器づくり大会の打合せ
７月１０日　〃
８月　３日　〃
８月１６日　野焼きの打合せ
９月１８日　石器づくりの打合せ
１０月　１日　〃
１月　７日　アンギン編みの打合せ
１月１８日　〃
１月２５日　〃
３月２６日　第５回総会の打合せ
４月１１日　〃
４月１８日　〃

# 学習

## 石器づくり

10 月 27 日（土）に南茅部町ふるさと文化公園で石器づくりを行いました。

風が強く曇気味で天気はあまり良くなかったのにも関わらず、19 名の方が参加しました。講師はクラブのアドバイザーである小林貢氏（南茅部町教委）にお願いしました。

使用した石は白滝産の黒曜石で、鹿の角は穂別の猟友会会長さんから譲っていただいたものでを使いました。鹿の角を切るのに今回はグラインダーを使いましたが、鹿の角独特の臭いが体中に染みついてしまい、頭がクラクラしました。

石器を作る第一段階は持ちやすい大きさの角で黒曜石を粗割りするのですが、なかなか割れずみんな悪戦苦闘していました。粗割りが終わ

文化公園で石器づくり

ちょっと難しいけど、楽しいで～す

こりゃあ、うちの包丁より切れるぞ！

ると後は比較的容易に割ることができます。黒曜石はガラス質の石なので、割れた瞬間「シャリン、シャリン」と音が鳴りなかなかの快感です。

第二段階では石器の形に整えていって、次に細かく刃を付けていきます。今回初参加の方もなんとか石器に刃を付けることができました。この刃を付けるときが一番神経を使います。ちょっとした力の加減で完成に近づいている自分の大切な作品が壊れてしまうのですから。

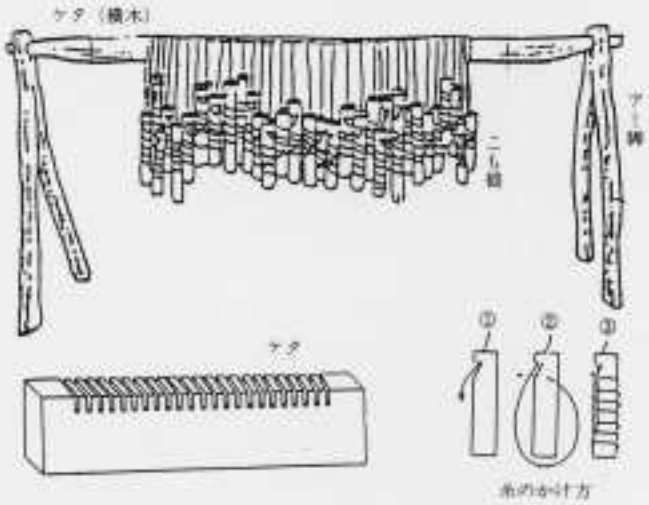
午後からはみんなそれぞれ完成した作品を持ち寄り、魚や肉の試し切りをしました。刃を付けないものも切れ味は良いのですが、刃こぼれを起こして材料に入ってしまうと口の中が大変になってしまいます。縄文の知恵に感心しながら、待ちに待ったバーベキューです。自分で作った石器で下ごしらえした料理を食べるという縄文の一部を体験することができた一日でした。

## アンギン編み

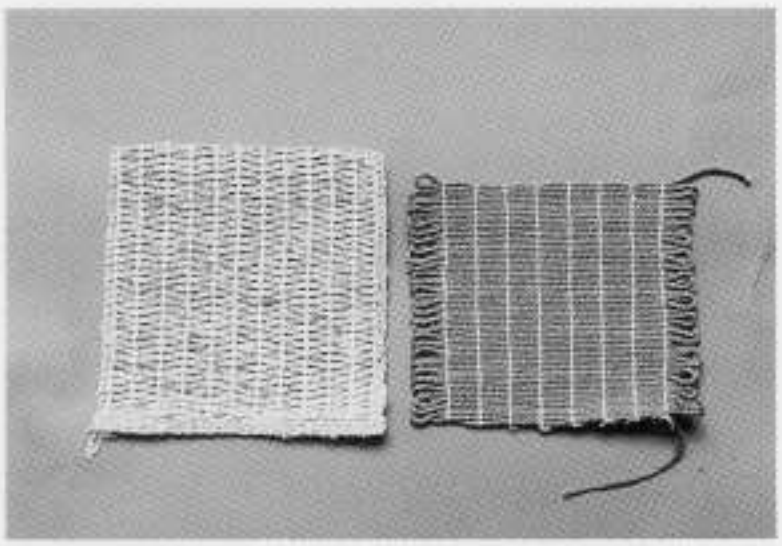
今回は縄文の布を再現してみようと、アンギン編みの実技講習を行いました。クラブの活動の中でもはじめての試みでしたので、道具づくりから始まり、材料の調達まで試行錯誤の連続でした。

編布（アンギン）という言葉を初めて聞かれる方もいると思いますので簡単に説明しましょう。

編布は日本最古の布と言われており、縄文時代を中心に使われた布の一種です。緯糸（よこいと）と経糸（たていと）を交互に絡（から）ませて布状に編み上げたもので、すだれや俵（たわら）と同じ作り方をしています。編布の出土例は少なく、今のところ国内で 12 遺跡で見つかっています。北海道では斜里町の朱円周提（しゅえんしゅうてい）遺跡、小樽市忍路土場（おしょろどば）遺跡から出土しています。平成 12 年には南茅部町垣ノ島B遺跡の調査で、縄文時代早期前半（およそ9,000年前）のお墓から糸に漆を塗った副葬品が出土しました。この副葬品は、緯糸が密になった状態で発見され、現段階では編布と断定できませんが、編布に非常によく似ています。




越後アンギンの道具
（尾関清子『縄文の衣』より）



左　越後アンギン　・　右　基礎アンギン

今回の実技講習では、スタッフのほとんどが初めての経験なので、これは大変と猛練習をしました。その前に、編むための準備をしなくてはなりません。600～700 個のコモヅチに経糸を付けていく作業はとても大変なものでした。

当日は、遠くは横浜や恵庭市カリンパの会のみなさんも参加され、総勢 38 名による挑戦が始まりました。

まず最初の一段目の緯糸に経糸を絡めていくことから始まるのですが、これがなかなかうまくいかず、隣の経糸を絡めたり、経糸を絡む加減が分からずデコボコになるなど、とても苦心の様子でした。仕上がりはコースターくらいの大きさの「縄文の布」が見事に出来ました。みなさん将来は「縄文服」に挑戦しましょう。

イェーッ！みんなも参加しませんか

# イベント

## 第５回縄文土器づくり大会と野焼き

縄文土器づくり大会も今年で５回目を迎えました。今年は８月４日（土）に福祉センター講堂で行われ、110 名参加しました。

開会の挨拶あとは、いよいよ土器づくりの開始です。さすがに常連の方は会場に来る前からのイメージがきちんとできているようで、なかなかのスピードで作っていき凝った作品を作るひともいます。「花瓶つくるんだ～。」と言っていた初めて土器を作るひともある程度イメージ通りにできたようです。

大勢の縄文ファンでにぎわいました

おっ、風はどっちだ？

逆に形を作っていくにしたがって上の方が広がりすぎて、一からやり直すひともいました。
大会が終わってから２週間かけて土器を乾燥させ、ようやく野焼きができるようになります。野焼きの最中に雨が降ってきても割れてしまうため、スタッフは何日も前から気象予報に釘付けになっていました。当日は快晴で絶好の野焼き日和となり、大船遺跡は 62 名の野焼き参加者で盛り上がりました。

今年もみなさんセッセッと薪を運んでくれました。下焼きから本焼きにはいるといっせいに薪をくべていきます。炎の中に見え隠れする土器は真っ赤に燃え、命が宿る瞬間のように思えます。あとは土器が冷めるのを待って出来上がりです。この野焼きはみんなで一つの目的に向かってやっていくすばらしさを教えてくれたと思いました。

私たちの作品で～す

# NHK「北海道中ひざくりげ」へ出演

7 月 13 日に放映された、北海道スペシャル「北海道中ひざくりげ」という番組に出演依頼がありました。内容は、旅人役の肥土(あくと)アナウンサーが、噴火湾の縄文から元気をもらっている、南茅部町の人々を訪ね歩くというストーリーで、取材は 6 月上旬に行われました。ストーリーは、鹿の角で釣り針を作り、実際に海で魚を釣って、石器で調理し、縄文鍋にするという内容です。

もう、そろそろ来るかなぁ～

早朝 5 時に安浦漁港にクラブのメンバーが、眠い目をこすりながら釣り竿を片手に集合しました。旅人と案内役の大塚副会長は、さっそく縄文服に着替え気分はもう縄文人？。用意した釣り竿は、数日前に大塚さんが自分の山で切り取ってきたもので、その釣り竿にちょっと太めの釣り糸を結び、おもり用の石は海辺から拾ったものを使いました。手慣れた？手つきで一斉に釣り開始です。さあ誰の釣り竿が一番早くゲットできるか。し～んと沈黙すること一時間。なかなか魚が針に掛かってれません。そばまで寄ってきているのに‥‥。次第に旅人とメンバーは焦ってきました。と、そのとき「キャーッ」という声。ふと振り向くと、なんと！魚が宙を飛んでいるではありませんか。魚を釣るのは初めてというメンバーに釣れてしまったのです。しかも、「かつおの一本釣り」状態で釣り上げた瞬間をカメラは捕らえていました。一斉に歓声が上がり、負けじと針を垂れること数分、不思議に次から次と魚が釣れ始めてきたのです。「キャー」、「お—」という声があちらこちらから。しかし旅人と案内役の大塚さんは、まだ釣れていないためちょっと悔しそうな様子でした。しかし、ついに大塚さんがゲットすることができました。旅人は、最初は「こんな道具で本当に釣れるの？」と思っていたらしいのですが、目の前で釣れる様子を見て、感激していました。

やっと釣れました、ほっ！

ちなみに、記録係の私もみんなの歓声に誘われて、「私も釣りた—い！」と、いつしかポケットから、my 釣り針とカラムシの繊維で撚った釣り糸を出し

て結びつけていました。おもりはその辺に転がっている小石を付けてＯＫ。竿がなかったので手釣りで挑戦です。糸を垂れてから間もなく、「ググッ」と魚がエサをつつく振動が糸を伝って直に指に感じる瞬間は、もう最高！次の瞬間、強い引きがあり、片手にカメラ、もう片手に釣り糸の状態でどうしたらよいかあわててしまい、私は後ずさりしてしまいました。途中まで釣り上げた魚は、コンクリートの壁に頭がぶつかり「ぽと―ん」と海の中へ‥‥。あ～私の魚‥‥。この日は、３時間ほどで八匹も釣れ、釣りの取材は無事に終わりました。実をいうと、もし魚が一匹も釣れなかったら地元の魚屋さんへ、とぼとぼ歩いて買いに行くストーリーでした。本当に釣れて良かったです。

オレって料理上手かも

次は場所を大船遺跡へ移し、石で組んだ囲炉裏のそばで釣れた魚を石器で調理します。クラブのメンバーに続き、旅人も黒曜石で作ったナイフで魚の解体に挑戦。ことのほか切れるので旅人も大感激でした。囲炉裏の中では土器から湯気が立ちこめ、いよいよ縄文鍋の始まりです。材料は、もちろん釣れたばかりのハゴトコと南茅部特産の昆布、あさり、笹竹、フキ、ワラビなどを土器の中へ入れ、塩で味付けした後に焼いた石を土器の中へ入れます。あっという間に沸騰して縄文鍋の出来上がり。さっそく出来た料理をいただきました。釣ったばかりの魚を、古の空気を浴びながら遺跡の中で口にほおばる味は、なんとも贅沢な限りです。最後は囲炉裏を囲みながら旅人と縄文に寄せる熱い思いを心ゆくまで語り合いました。縄文からもらった元気を多くの人たちに広げていくことを心に誓い、全行程の取材は無事終了しました。

縄文の味わいでした

# 情報コーナー

## ー催し物ー

**・7月27日**

「第6回縄文土器づくり大会」開催。

縄文土器を作って、縄文時代を体験しましょう。

**・7月28日**

「縄文の道フォーラムⅣ」開催。

俳優であり南茅部町とも縁の深い苅谷俊介氏が基調講演をされます。

**・7月下旬～8月上旬**

中空土偶・世界最古の漆展示予定。

大船遺跡速報展示室で開催します。今まで見る機会がなかった国重要文化財の「中空土偶」の本物と垣ノ島B遺跡出土の漆製品を見ることができます。

## ー本の紹介ー

『新北海道の古代　1　旧石器・縄文文化』

野村崇・宇田川洋 編　北海道新聞社（2000円+税）

北海道の旧石器から縄文について書かれており、南茅部町の遺跡や出土した遺物などが載っています。

『日本人と木の文化』

鈴木三男 著　八坂書房（2400円+税）

日本の人々が育んできた森との関わりについて書かれています。南茅部町垣ノ島B遺跡から出土した漆製品が載っています。

2002年3月31日　第4号発行
発　行　北の縄文CLUB
連絡先　北海道茅部郡南茅部町字大船575-1
南茅部町埋蔵文化財調査団内
TEL.01372-2-5510
FAX.01372-25606
Eメールアドレス
joumon-c@alto.ocn.ne.jp